

穴戸ゼミナール

2016 年度 活動報告



穴戸ゼミナールでは、「少子高齢化とまちづくり」をテーマにしています。「社会的排除」の問題について考え、現地に足を運んで、自分たちにできる解決策を実践します。①問題を把握する力、②課題を解決する力、③異質な他者とコミュニケーションする力を向上させることをねらいとしています。また、働く上で必須となるパワーポイントやワードも学習します。

子どもの貧困と貧困の世代間連鎖

日本の子どもの6人に1人は貧困状態にあります。このプロジェクトは、虐待を受けたり、家庭環境に恵まれない子どもに対して、学習支援のかたちでサポートするプロジェクトです。現在、どこからわからなくなったかわかる「さんすう」の教材、約150ページの問題集を修正中です。

完成度の高い教材を作ることは大変難しく、パソコンに慣れる良い経験になりました。また、子どもと関わるので、**教職に興味のある方はぜひ参加してください。**

右の図1は、前近代社会と近代社会の世代間の階層移動をイメージしたものです。近代社会では、学校の制度の確立により、親の社会階層と子どもの社会階層の繋がりが分断されるイメージを持ちます。しかし、実際には親の社会階層と子どもの社会階層には、極めて強い関連があります(図2)。私たちの社会は教育システムの「能力の原理」に則って本当に人々の社会的地位を決めているのでしょうか？

図1 教育システムと近代社会

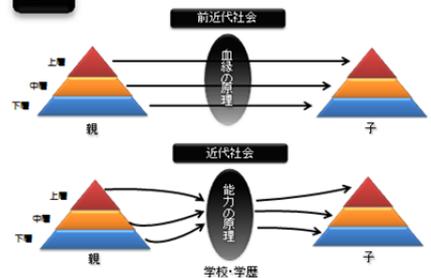
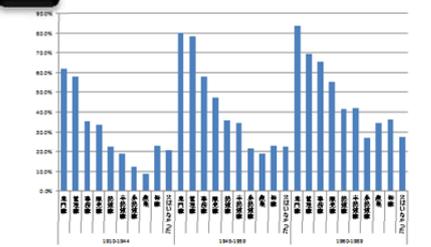


図2 父職と子どもの大学進学率(男性)



瓢箪山サマースクールの企画

夏休みに4日間、瓢箪山地域でサマースクールを実施するプロジェクトです。午前は勉強、午後は地域の方たちと世代間交流をします。今年はさまざまな工夫をして、**昨年の5倍の小学生**が来てくれました。子どもたちの元気さに圧倒されること間違いなしの取り組みで、実際に小学生の子どもたちと触れ合える貴重な体験となります(図3)。

このサマースクール企画の難しい点を挙げておきましょう。

- ① 当日になるまで、参加人数が分からない
- ② 人数が分からないので、午後の世代間交流の道具揃えが不安
- ③ 今年は小学校の体育館も使いましたが、熱中症対策が大変でした
- ④ 小学校低学年は午前中の勉強時間の途中で遊び始めてしまいます

などなど。学生もかなり体力と忍耐力を必要とします。しかし、このような細かな段取りや道具揃え、スケジュール管理の経験が将来に役立つのだろうなあとと思います。

図3



買い物弱者支援

買い物に行くことに困っている人々を大型スーパーに運ぶプロジェクトです。半径500m以内にスーパーがないと「買い物難民」が発生しやすいようです。**日本全国で700万人**の買い物難民が存在しています。女性起業家の東大阪手作り市とコラボして運営しています。2016年8月にゼミの取組が産経新聞に紹介されました(図4)。買い物難民を助けるために大きなスーパーに車を走らせ、買い物難民の方の笑顔が見れることや、買い物難民の方と関わることができるので貴重な体験ができます。

今年困ったのは、ドライバーの確保です。「元気高齢者が高齢者を支える」をモットーにしているので、運転手は高齢者の方にさせていただきます。学生はメイト役です。近年、高齢ドライバーの交通事故が多数報告されており、風当たりがきつくなってきました。学生のメイト役も、利用者の方が買い物をしている時に暇になりがちです。来年以降、関わり方をもっと工夫しなければ！



図4

